



第5図 根本氏が解折した1952年 Typhoon Freda の径路 (伊藤・久米共著 '天気予報論' 第77図から)

には第3図のような蛇行の方が多いように思うが、第4図のような蛇行も決して稀ではない。1例として1952年の Typhoon Freda の 経路を根本順吉氏が解析した結果を参考のため第5図に示しておいた。

## References

- Arakawa, H., 1952: Phugoid Motion of Whirlwinds in the Atmosphere, *Geofisica pura e applicata*, Milano, **22**, Fasc. 3/4, 171-173.
- Deppermann, Charles E., 1910: Notes on the Origin and Structure of Philippine Typhoons, *Bull. Amer. Meteor. Soc.*, **28**, 399-404.
- Kármán, Theodore V. & Maurice A. Biot, 1940: *Mathematical Methods in Engineering*, McGraw-Hill Book Company, Inc., New York, 143-150.
- Lanchester, F. W., 1910: *Aerodynamics*, Constable & Company, Ltd., London, 443.
- Syōno, S., 1951: On the Motion of a Vortex in a Non-Uniform Pressure Field, *Papers in Meteorology and Geophysics*, Tokyo, **2**, 117-128.
- Yeh, Tu Cheng., 1950: The Motion of Tropical Storms under the Influence of a Superimposed Southerly Current, *Journal of Meteorology*, **7**, 108-113.

## 話 題

### IGY の資料

昨年からはまった IGY 観測の大きな資料はマイクロフィルムに収められ、所要の向きにおいては、これを購入できるということをきいている。気象庁においてもおそらくこの貴重なデータはそなえられることになるものと思うが、ただ資料を購入するための理由があまり明確でないために購入に困難な点があるということもきいている。そこで、どうしてもこの資料を用意しなければならぬはっきりした理由を明示しよう。それは昨年9月、10月を中心とした太陽活動は、太陽黒点の正規の観測が始められて以来、桁外れに大きなものであったということである。年平均相対数は190.2で、今までの最高154.4 (1778) をはるかにひきはなした値である。これにともなわれた地球上の地磁気じょう乱の大きさは平常値の20倍以上の月もあった。したがって9月、10月を中心として地球上の各種のじょう乱を詳細にしらべるとは太陽-地球の関係を探究する上に重要な手がかりを与えることになるであろう。このような点から IGY 観測の結果はどうしても気象資料の中心である気象庁に用意する必要があるのである。(N)

### "方法序説"

デカルトがその方法序説において『真理探求』といっているのは、矢張り科学の持つ技術的有用性のほかに、科学のロゴスの性格を強く主張したのである。古代ギリシャ以来のマギーや中世の錬金術が、近代の実験科学と共通的な性格をもつと云われるが、それは原始生活ではマジックと云うのが、実生活上の効用なり目的なりに常に即していたのである。古代科学全体の性質と、今日の科学的性格の根本的相違は古典科学は自然哲学であった点である。トレールチも云うように西欧史が、第1にギリシャ古典、第2にキリスト教、第3にゲルマン的精神、を挙げ、近代を形も造る根本的なものとして科学精神を次いで挙げ、先の3つの伝統と別種の扱いをしている。それは科学の中の一つの能力であるところの技術的有用性のみの拡大進展を指摘するものであり、今日の文明の危機と人間喪失の根本がここにあると云える。

1958.5.13 (白岡)